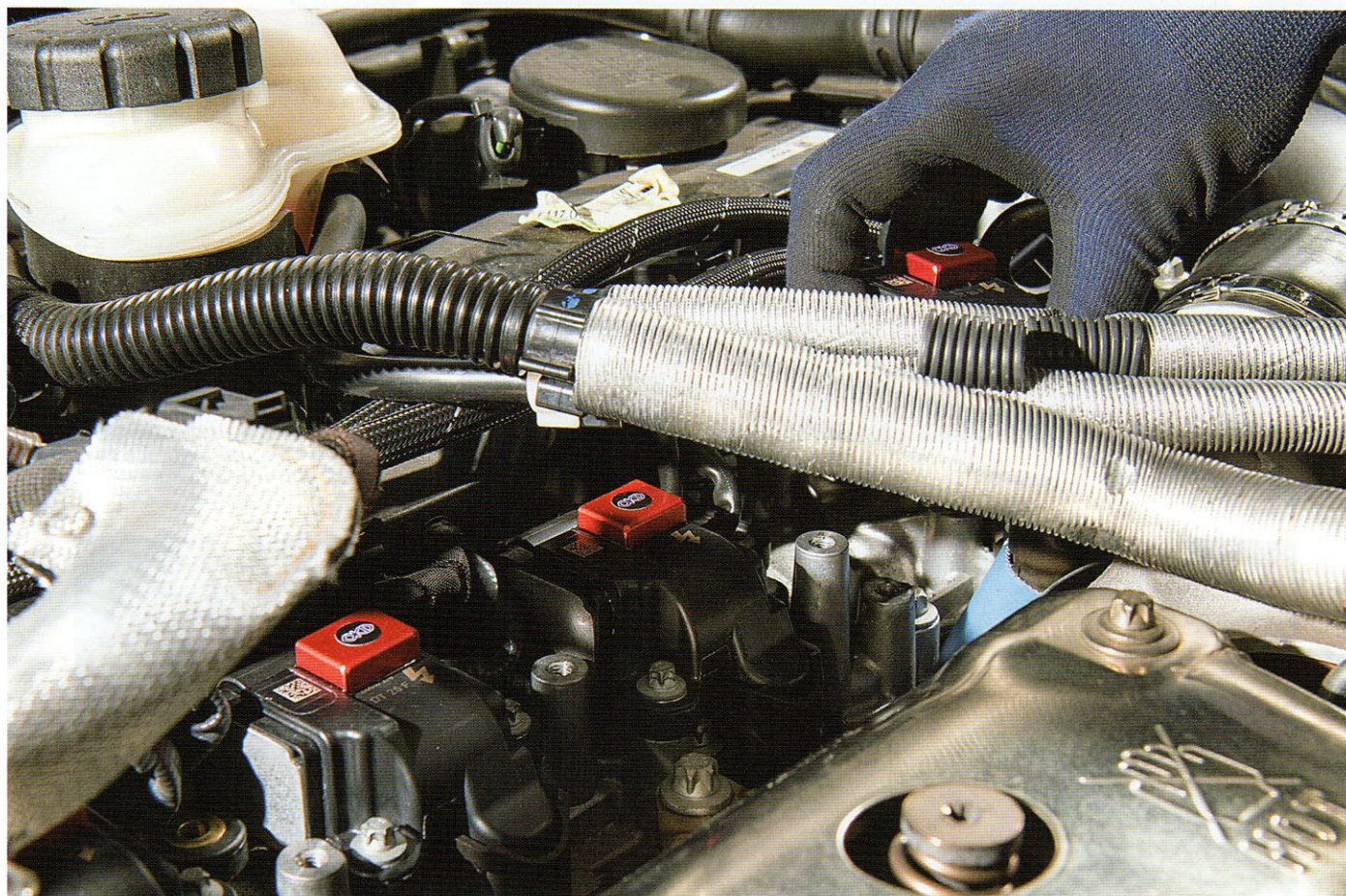


OKD PLASMA DIRECT



AMGユニットの燃焼効率を高次元に引き上げる! ハイパーチューニングコイル



AMGを所有する大人の嗜み。それはいたずらに変化を求めるのではなく、さり気ないチューニングでベストコンディションをキープすることだ。そんな大人なマナーのあり方を、イグニッションチューンで実践!

©オカダプロジェクト ☎044-822-3341 www.okadaprojects.com
TEXT:丸山佳彦 PHOTO:渡部祥勝

「プラズマダイレクト」は、純正のイグニッションコイルと交換装着する点火チューニングパーツだ。その特徴は、通常一度の点火で混合気を燃焼させるのを、複数回点火させ未燃焼の混合気を完全燃焼させることでパワーやトルク、アクセルレスポンスの向上など、エンジンが本来もっている性能をさらに引き出すことを可能にしているという。

「プラズマダイレクト」は、メルセデス・ベンツにも多く対応しているが、AMGのようなスポーツモデルにも合わせたセッティングで開発、車種ごとの専用設計が施されている。これにより的確な点火時期を実現、ノッキングが抑えられることも特徴のひとつだ。

また燃焼効率を高めることで燃え残りを減らし、カーボンの蓄積を低減しエンジンへの負担も抑えている。さらにCO2の低減など、環境にも優しいというオマケつきだ。

今回はW176型AMG A45でストップ&ゴーの多い市街地での走行だったが、もともと強靱なパワーをもつAMGでは、パワーやトルクの増大というよりも、滑らかな発進・加速などフィーリングの良さが向上し、特にアクセルレスポンスでノーマルとの違いを感じ

取ることができた。マニュアル車では、さらにその違いが感じられるのではないと思う。またサーキットなどの高速ステージでは、もっと多くの効果を感じ取ることができるはずだ。

ノーマルから「プラズマダイレクト」への交換は、コイルを交換するだけのボルトオンで行える。たとえば、試乗車のAMG A45の場合では20分程度の作業時間だった。車種にもよるが日頃からDIYでセルフメンテナンスをしているユーザーなら簡単に行えるだろう。ちなみに「プラズマダイレクト」は通常のイグニッションコイルと同様に同等距離の使用が可能とのこと。

オカダプロジェクトでは現在AMG用ラインアップは新旧モデルを豊富に揃えているが、今後も開発を続け、幅広く適合車種を増やす計画だという。AMGユーザーには朗報だ。

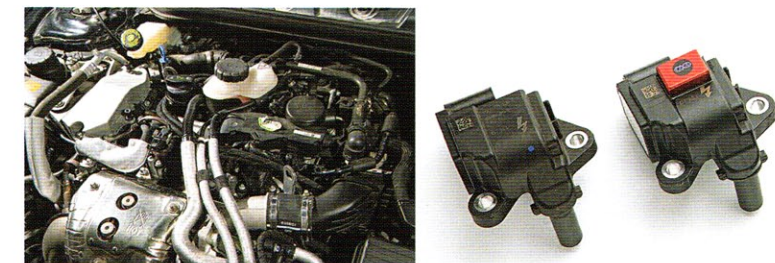
かつてスパークプラグやプラグコードの交換などでライトチューニングを楽しんだAMGオーナーもいると思うが、エンジンルームがブラックボックス化した今、エンジンにダメージを与えないこんな大人のチューニングで愛車のレスポンスアップを計ってみるのはどうだろうか。



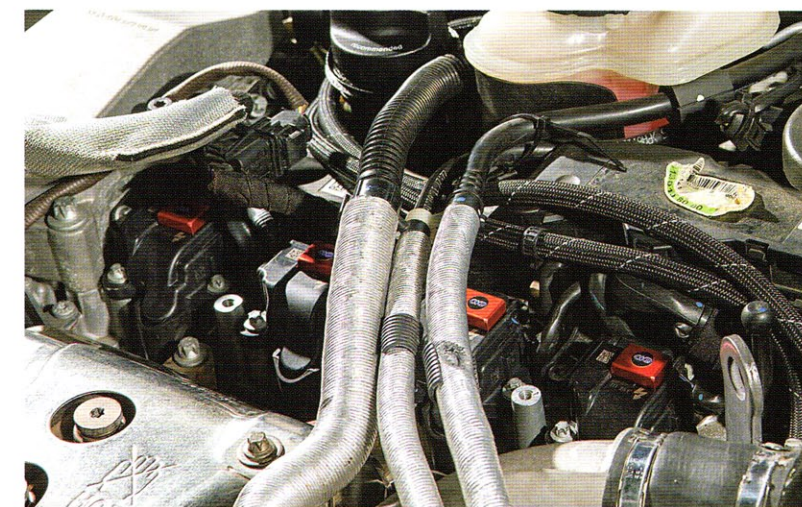
車種専用設計のイグニッションコイル



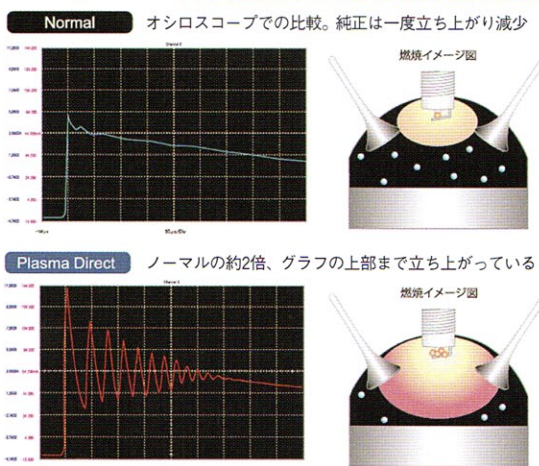
マルチスパークにより完全燃焼を促進。エンジン性能の向上を実現するほか、ノッキングを抑制するなどエンジンへの負担も低減。レッドのワンポイントがアイコンだ



取材ではW176型後期のメルセデスAMG A45に写真右の製品をセットした。左は純正部品だ



マルチスパークと電流値の増大を純正と比較



2次電流の比較では、「プラズマダイレクト」がノーマルの約2倍の電流値を示しているのがわかる。完全燃焼を促すことでエンジン本来の性能を引き出すことを実現。エンジン性能の向上をはじめ、エンジンライフや環境にも優しいパーツであることを示す



プラズマダイレクト for AMG45系

ダイレクトイグニッションシステムに対応した「プラズマダイレクト」。燃焼効率の向上によりパワーやレスポンスアップなどの効果を発揮する。AMG A45用 (SD324061R) は ¥143,000 (税込)



製品にはシリアルナンバー入りのステッカーを付属。エンジンカバーを被せると隠れてしまうので、AMGマイスターのサインの横に貼りアピールしてみた



AMG用としてこのほか、63系NA用と55系用を。いずれもパーツは純正を使用する